

The way forward

トップインタビュー

回復基調にある海外ビジネスを、
さらに加速する。

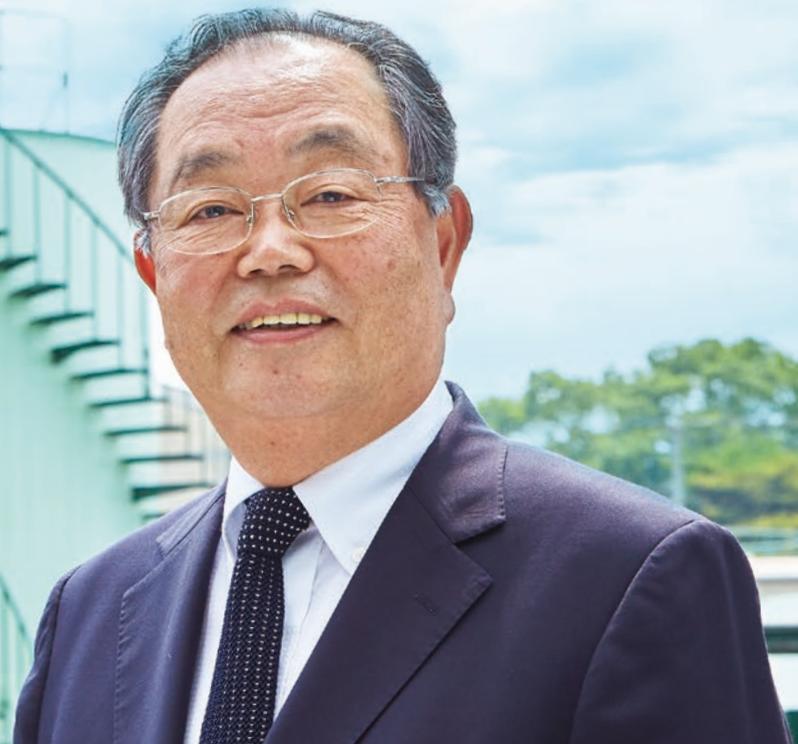
今年に入ってから急激な円高が進み、当社も大きな影響を受けましたが、第59期上期の業績を総合的に見ると安定しており、ほぼ計画通りに進捗しています。

とくに調子が良かったのはホットメルト接着剤部門です。インドネシアにおいては予想以上の売上高を達成しましたし、国内も堅調に伸びました。特殊潤滑油部門は自動車産業の景気に大きく左右されるため、昨年度は伸ばしきれませんでした。今年度は東南アジアの市場が回復基調にあることに加えて、北米市場も堅調に推移しており、こうしたマーケット環境の恩恵を受け、海外を中心に売上高を伸ばすことができました。一方で、当社の成長エンジンであったハードディスク表面潤滑剤がこの上期はやや減速傾向となりました。要因としては、半導体のフラッシュメモリを使ったSSD（ソリッドステートドライブ）のコストパフォーマンスが上がったため、HDD（ハードディスクドライブ）自体の需要の伸びが鈍化したからです。以上のようなプラスマイナスの結果として、上期はまずまずの実績となっています。

下期に向けては、マーケットが大きい中国と北米の自動車産業に、よりくい込んでいくことを目指しています。MORESCOならではの独自性のある製品をタイムリーに市場投入していく準備が徐々に整いつつありますので、これをきっかけに当社の市場シェアを高め、さらに業績を伸ばせるのではないかと期待しています。

株式会社 **MORESCO**

代表取締役社長 赤田 民生



一つひとつの事業の体制を引き締め、
より大きな収益を生み出す形をつくる。
そこから、次の一步を進めていきます。

シェア**拡大**

**潤滑性と離型性を兼ね備えた
鍛造潤滑剤で世界を席巻する。**

中期経営計画において、大きく伸ばすことを想定している鍛造潤滑剤。現在は潤滑性と離型性を兼ね備えた製品の開発を進めており、実際にお客様の工場でテストを重ね、良い結果が得られるところまで来ています。このような市場が望む品質の高い製品をタイムリーに投入していくことで、世界のマーケットの中でのMORESCOのシェアを高めていくことを目指します。



新事業**進展**

**デバイス材料事業として進めてきた
新たな事業を、さらに大きく。**

新事業の要として積極的に開発してきた有機EL分野の封止材は、着実に採用率が高まっています。今後は有機ELに限らず、水に弱いフレキシブルデバイス全般を補助するテクノロ

ジーとして打ち出し、台湾・中国へも販路を拡大していきます。また、2020年に向けてよりスピーディに事業を拡大していくため、有機薄膜太陽電池(OPV)について独自の製造ノウハウを持つ(株)イデアルスターと技術提携を結びました。今後はOPVの製造も含めてエネルギーデバイス関連事業として確立していきたいと考えています。



製造**革新**

**売上げの安定した製品分野は、
プロセスの合理化で利益を拡大。**

素材事業の流動パラフィンや合成潤滑油事業のハードディスク表面潤滑剤などは、安定した売上げがあるものの、今後大きな需要の伸びが見込みづらい分野。この分野ではとくに積極的に生産プロセスの革新を進めます。例えば、同じ原料から、より多くの製品が製造できれば、それだけで原価が下がり、より大きな利益を生み出せる。このような方針でビジネスを強化していきます。



海外**強化**

**中国とアメリカの体制を刷新し、
積極的に海外売上高を伸ばす。**

ここ数年、海外の売上高を着実に伸ばしてきましたが、前期にテコ入れを行った体制を軌道に乗せ、さらに大きく進展させます。とくに重要なポイントである中国市場については、昨年11月に現地子会社の販売体制をリニューアル。今期3月にはマネジメント層も刷新し、ローカルでも技術開発力の向上を目指します。またアメリカの現地マネジメントも改善を図りました。





50周年を迎えた千葉工場から見る MORESCOの足跡と次なる未来。

国内ではじめての スルホン化工場として立ち上げ

MORESCOは1965年に国内で初めて流動パラフィンとスルホネートの国産化に成功し、これを生産する拠点として千葉工場を建設。1966年2月より試運転を開始しました。しかし、国内では前例のない工場設備のため、当初は思ったように製品が得られず、試行錯誤を経て、生産を軌道に乗せることに成功しました。



建設現場での記念写真

合理化への改善を重ね、 会社の一翼を担う工場へ

以後、千葉工場ではこの50年、流動パラフィンとスルホネートを生産し続けています。高品質の製品を、いかに安定的に、ロスなく生産するかを工場の課題とし、つねに設備の合理化を図ってきました。1990年にはプロセスコンピュータを導入して処理量を高め、2009年には新たなスルホン化反応装置をアメリカから導入して反応効率を高めました。



スルホン化反応装置

現在の生産品目

人の暮らしの中で、幅広く用いられる製品を安定生産



流動パラフィン

原油から蒸留や精製などの工程を経て得られる炭化水素類の混合物。無色透明の液体で人の肌などへの安全性が高いのが特徴です。

主な用途

- 食品トレイ
- 化粧品・トイレタリー製品
- リチウムイオン電池膜
- 膏薬などの発布材



スルホネート

硫酸洗浄法により、流動パラフィンを精製する際、副産物として得られる物質。界面活性剤として多方面に活用されています。

主な用途

- 金属加工油
- エンジンオイル

近年の主な取り組み例

熱効率の良い蒸気ボイラに刷新

2013年に、環境に優しい天然ガスの蒸気ボイラに置き換えました。大幅な小型化が実現し、スペースにゆとりができたことに加え、出力は従来に比べて約20%アップしています。



生産プロセス革新プロジェクト推進

さらなる合理化を実現し、工場の収益率を高めるために、2015年より生産プロセス革新プロジェクトを推進。8名のメンバーと2名の顧問が、抜本的な改善計画に取り組んでいます。





千葉工場長 根本 勲

今後は…

さらなる生産プロセスの改善と、 新製品の開発を目指す

継続的に合理化を追求してきた千葉工場ですが、生産プロセスを見直せば、まだまだ改善の余地はあると考えられます。当社では現在、プロジェクトチームを組んでさらなる改善を推し進めると共に、新製品の開発を行っています。

合理化のため廃液濃縮装置を導入

2016年2月に老朽化した設備を刷新するにあたって、生物処理を行う廃液濃縮装置を導入。廃液処理コストの削減を図っています。導入後のコスト削減効果は、現在計測中です。



ローリー出荷場を増設

近年製品の生産量が増えた千葉工場では、タンクローリーの出荷場を2012年に増設しました。



MORESCO 年間トピックス

4月 (株)マツケン 金属プレス加工技術展に出展

グループ会社である(株)マツケンが4月20日～23日にインテックス大阪で開催された技術展に出展。関西・中国地域の顧客・代理店様に商品のPRを行い、有益な情報を多数入手できました。



5月 モレスコUSAが創立10周年

2006年5月にミシガン州に設立されたMORESCO USA INC.は皆様のご支援に支えられ、10周年を迎えました。今年6月には倉庫機能も有した新事務所に移転し、新たな一歩を踏み出しました。



5月 世界鑄造会議展示会に出展

5月22日～24日の3日間、名古屋で開かれた第72回世界鑄造会議(WFC2016)に付随する展示会に出展。来場者の方に、当社のダイカスト関連商品(離型剤など)をご覧いただきました。



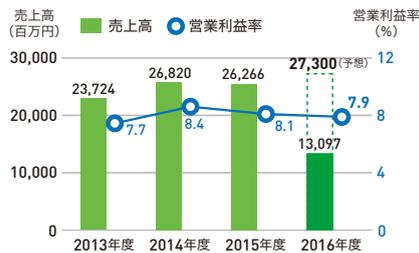
8月 (株)イデアルスターと技術提携

軽量で折り曲げられる有機薄膜太陽電池を研究開発する(株)イデアルスターと技術提携を締結。共同で研究開発や販売先の開拓を進めつつ、同電池の量産化を実現して事業化を図ります。



当第2四半期連結累計期間の売上高は13,097百万円(前年同期比0.4%増)となり、経常利益は1,070百万円(前年同期比8.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は634百万円(前年同期比10.5%減)となりました。

売上高と営業利益率



経常利益と経常利益率



海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

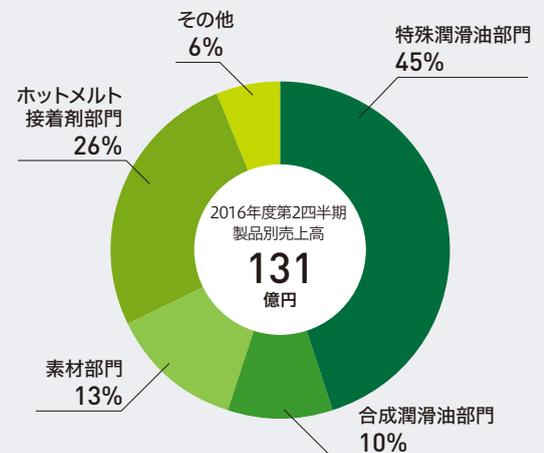


セグメント情報



売上数量は増加したものの、円高により売上高は横ばい。

自動車生産の状況に大きく左右される特殊潤滑油部門の売上高は、海外の自動車生産台数の回復基調の中で堅調に推移。またホットメルト接着剤部門は衛生材用途が堅調で、新規顧客獲得などのプラス要素が加わって売上高を伸ばしました。

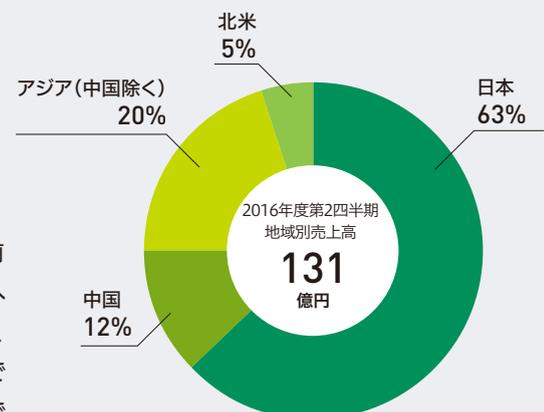


特殊潤滑油	合成潤滑油	素材	ホットメルト接着剤
熱間鍛造潤滑剤、冷熱媒体、および不凍液の売上高は新規顧客の獲得などにより、前年同期以上に。	HDDの生産数量減などにより、ハードディスク表面潤滑剤の販売が鈍化し、売上高は前年同期を下回る結果に。	流動パラフィンは、各用途で売上数量を伸ばしたが、原材料価格低下に伴う販売価格の下落で、売上高は減少。	主力である衛生材用途が堅調に推移したうえ、粘着用途での新規顧客を着実に獲得し、売上高は前年同期以上に。



海外の自動車生産台数の回復により、堅調な売上高。

日本では、自動車生産台数が前年同期に比べて減少したことなどにより、売上高は前年同期並みにとどまりました。中国では自動車生産台数が伸びたことや新規顧客への拡販などにより、売上高は前年同期を上回りました。東南アジアでは特殊潤滑油、ホットメルト接着剤の販売が新製品の投入などにより堅調に推移しました。北米では堅調な自動車生産に支えられ、特殊潤滑油の売上数量を伸ばしました。一方で円高により、海外売上高の邦貨換算額は前年同期比微増にとどまりました。



会社概要・株主情報 (平成28年8月31日現在)

■会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,090,578,200円
従業員数 299名

■本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町
5丁目5-3
電話078-303-9010(代表)
支店 東京支店/大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場/赤穂工場

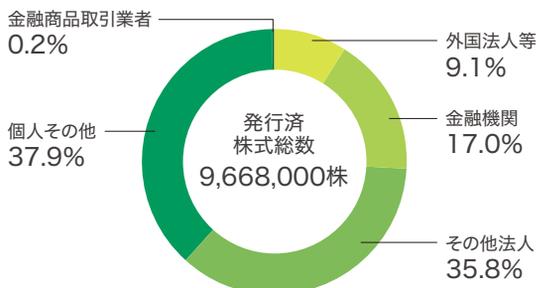
■役員構成

代表取締役社長 執行役員 赤田 民生
取締役 専務執行役員 竹内 隆
取締役 常務執行役員 山地 一
取締役 常務執行役員 両角 元寿
取締役 常務執行役員 宮川 弘和
取締役 浅野 応孝
取締役 リ・ジュ・ジュディ・リン
取締役 出口 侑宏
常勤監査役 作田 真一
監査役 冨野 武
監査役 小沢 史比古
監査役 長谷川 克博

■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,668,000株
株主数……13,309名

■株式所有者別分布状況



■大株主

株主名	持株数	株主比率
松村石油(株)	1,067,000	11.0%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	606,000	6.3%
コスモ石油ブルカンツ(株)	503,000	5.2%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	337,800	3.5%
双日(株)	327,000	3.4%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
MORESCO従業員持株会	326,720	3.4%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	297,900	3.1%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日

■中間配当金受領株主確定日

(中間配当を行う場合)

8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町

三丁目6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。